

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4070501061
法人名	有限会社 トータル・ケア・サービス田原
事業所名	グループホームあしたば
所在地 (電話番号)	福岡県北九州市小倉南区新道寺396 (電話) 093-451-3002

評価機関名	SEO (株)福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F		
訪問調査日	平成 20年 10月 8日	評価確定日	平成 21年 1月 27日

【情報提供票より】(平成 20年 9月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14年 4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤	7人, 非常勤 5人, 常勤換算 7.40人

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄骨軸組&パネル併用耐火構造 造り	
	1 階建ての	1 階 ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	47,400 円	その他の経費(月額)	20,400 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	360 円	昼食	640 円
	夕食	640 円	おやつ	円
	または1日当たり		円	

(4) 利用者の概要(平成 20年 9月 1日現在)

利用者人数	8 名	男性	5 名	女性	3 名
要介護1	2 名	要介護2	4 名		
要介護3	0 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 80.8 歳	最低	65 歳	最高	86 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	(医)小林内科医院、そう歯科医院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

法人代表は、20年近くも続けている四国八十八箇所お遍路巡りで、多くの高齢者の方々から認知症に対する不安や悩みなどを聞くようになり、何か自分にできることはないかと考え、これまで培った医療と福祉の知識と経験を活かし、祖父の代からの生家を建て替えて、“グループホームあしたば”を開設した。若葉を摘んでも翌日には新しい葉が出てくるほど生命力の強い明日草(アシタガサ・・・別名:明日葉)にあやかり、名づけた“グループホームあしたば”。施設長が地元出身ということもあり、ご利用者、スタッフにも地元の方が多く、ご利用者にとって馴染みの場所である保育園にお連れしたり、行きつけの理・美容室、百貨店等にお連れしたり、ご利用前に習慣とされていた月命日のお寺参りを継続していただく等、地域に密着したホームならではのケアを実施している。また認知症の方々と介護スタッフが力を合わせて一緒に暮らすことやご家族の介護のご負担を少しでも軽減して、皆さんによりよい生活、快適な生活を送っていただくことを“あしたば”の目標としている。医療機関との連携も図れており、心身機能の維持のために、訪問マッサージやスポーツインストラクターによる“体動レク”も取り入れている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) ①“センター方式”を導入し、ご本人やご家族から情報をいただきながら、ご利用者本位の「介護計画」の作成に取り組んでいる。意思疎通が困難で思いを明確化して記載することが難しい方もおられるが、そのような方のご希望やご意向に対してもスタッフが目を向けられるようになってきており、ご家族のご希望も取り入れながら、介護計画の作成に取り組むことができています。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 施設長と管理者が、評価の意義をスタッフに話し、まずスタッフ一人一人に自己評価を行ってもらい、その結果を取りまとめた“自己評価票”を再度スタッフに回覧し、追加、修正を加えた。どのスタッフがどのような疑問を持っているのか?どのような思いがあるのか?等施設長自身が取り組みの余地が残されている分野に気付かされる等が明確となり、課題を把握できる材料となった。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) ①運営推進会議には、今年からご利用者にも参加していただけるようになり、他にご家族代表、地域代表、包括支援センター職員等にも参加いただいている。②家族会と運営推進会議を一緒に実施したことで、ご家族からのご意見も多々聴くことができ、いただいた意見に対してはすぐ行動し、その結果を必ず次回報告するようにしている。③毎回テーマを決めて会議を開催しており、地域交流のための情報交換やサービスについての意見を出していただく等によって、ケアの質の向上に活かすことができています。
	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9) ①ホームの理念にある“家族以上、家族未満”に近づくためには、ご利用者のご家族の意見や悩みは不可欠なものであるとの考えが強くあり、ご家族の意見の反映は大切にしている。「悩んでいるのは私だけだろうか?」との不安を持たれたご家族に対しては、本音を言いやすいようにするために施設長自身がご家族同士での連絡を取り合える環境作りに配慮することで、ご家族の横のつながりもできています。②あしたば通信(ホーム便り)の発行も年内に予定している。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地区の運動会にご利用者が2名参加、中学校のホーム体験学習の受け入れ、近くの保育園児達をホームに招待する等、地域交流に積極的に取り組んでいる。また2月には今年から開催された地域市民センター主催のウォーキング会にもご利用者1名参加でき、地域活動の幅も広がってきている。また近隣の方がホームの花壇の土作りをしてくださったり、近所の方にご利用者が布草履作りを教えてもらい、地区の文化祭に出展する等の交流も継続できています。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	平成14年の開設時に、施設長及び当時の管理者・スタッフとで話し合いをして、“あしたば”独自の理念を作成した。当初から「地域との交流を深め、地域に溶け込んだグループホームを目指します」を盛り込んでいる。施設長が地元出身でもあり、ご利用者やスタッフにも地元の方が多く、地域に溶け込んだホーム運営が図られている。また平成20年度からパンフレットの中に理念を追加している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念はホームの玄関や事務所に掲げているが、今春の退職と新規採用でスタッフが大幅に変わり、スタッフ全員が理念を理解しているとは言い難い状況である。理念共有のため、日々のケアの中で全員で確認しあったり、ミーティングで施設長や管理者が主となり、理念の意義を職員全員に伝えている。会議や日々の現場で話されるケア内容自体が理念と一致しており、徐々に理念の実践に向けて努力していきたいと考えている。	○	施設長や管理者は「“理念の趣旨”を全スタッフに理解してほしい」との思いが強く、日々介護業務や会議の中で、伝える努力をしている。また今後はスタッフに個別に丁寧に伝えていきたいとの思いもある。現在、ご利用者に対して、馴れ合いの関係が見受けられるため、今後もスタッフ同士が教えあい、話し合い、注意し合いながら理念に沿ったケアに近づいていけることを期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区の運動会にご利用者が2名参加し、中学校の職場体験学習の受け入れを行ない、近くの保育園児達をホームに招待する等、地域交流に積極的に取り組んでいる。また2月には今年から開催された地域市民センター主催のウォーキング会にもご利用者1名が参加でき、地域活動の幅も広がってきている。また近隣の方がホームの花壇の土作りをしてくださったり、近所の方にご利用者が布草履作りを教えていただき、地区の文化祭に出展する等の交流も継続できている。	○	今年から開催された地域市民センター主催のウォーキング会にご利用者、ご家族、スタッフで参加することができ、現地ではご利用者の知人からも声をかけていただけたこともあり、地域との交流の幅も広がっている。しかし、行事に参加できるご利用者が限定しており、スタッフの人員体制も安定しているとはいえない状況であるため、今後は徐々にスタッフの人員体制等を整えとともに、ご家族や地域の方々のご協力をいただきながら、課題の改善に取り組み、よりいっそう地域との交流が深まっていくことを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を理解している施設長、管理者が主となり、全スタッフに自己評価を行ってもらい、その結果を取りまとめた。その自己評価を通して具体的な改善の取り組みまでは実施できていないが、今後力をいれていきたい点、各スタッフの思いや疑問点、また施設長自身が取り組みの余地が残されている分野に気付かされる等が明確となり、課題を把握できる材料となった。また、昨年度の自己評価・外部評価の結果についても改善策を検討し、現在も活用している。	○	新規採用のスタッフも含めて、評価の意義が全スタッフに浸透していない状況にある。今後も自己評価で得た材料を基に、全スタッフが自己評価及び外部評価について理解し、それがケアに活かすことができるように、介護の現場や会議等での検討を続けていくことで理解も進んでいくことが期待できる。今後の取り組みに期待していきたい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、3名のご利用者に参加していただき、他にご家族代表、地域代表、地域包括支援センター職員等にも参加いただいている。参加者からのご意見もあり、今年から家族会と運営推進会議を一緒に実施したことで、ご家族からのご意見も多々聴くことができた。いただいた意見に対してはすぐ行動し、その結果を必ず次回の会議で報告するようにしている。毎回テーマを決めて会議を開催しており、地域交流のための情報交換やサービスについての意見を出していただく等によって、ケアの質の向上に活かすことができている。外部評価の結果も報告している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	20年度はちょうど更新の時期も重なり、相談も含めて、既に10回以上は市のほうへ訪問している。またご利用者の周辺症状に対する対応についての、アドバイスや相談を受けていただけたことで、ご家族に相談、説明した上で解決につながったこともある。今後も市担当者との話し合いの場を多くとっていききたいと考えている。	○	現在は発行できていないが、年内には“ホーム便り”を再開する予定である。今後もそのホーム便りを市のほうにお持ちしたり、また相談やアドバイス等をもちかけ、積極的な情報の提供と共有を図ることで、さらなるサービスの質の向上につながっていくことを期待したい。
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度に関する外部研修会に、一部のスタッフに参加してもらい、他のスタッフには資料を回覧した。制度に関するパンフレットはホームに備え付けており、必要と思われる方には、相談窓口や弁護士等の紹介を行っており、実際に成年後見制度を利用されている方が1名、準備中の方も1名おられる状況である。	○	ご家族の状況によっては、当該制度の説明すること自体にも、慎重な配慮が必要な場合があるであろうから、説明する時期・内容は個々に判断していく必要があると思われる。適切な時期に適切な内容で説明できるようにするためにも、ホーム内に、ある程度詳細に制度を知っている職員を確保することが良いと思われ、ホームでも、担当職員を設定したいと考えているとのことで、今後の取り組みが期待される。
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご家族に近況を報告するという目的で作成していた「ホーム便り」であったが、地域にも配布することから、「ホーム便り」の目的が広がり、内容の見直しを行うため、現在、一時的に発行を中断している。担当スタッフからの毎月の手紙は現在も続けており、現金出納帳も同封している。利用料は振り込みでなく持参いただくようにしているため、ご家族は最低月1回は来訪されており、その時、暮らしぶりや健康状態など口頭での報告もしている。	○	ホーム便り“あしたば通信”を昨秋以来発行できておらず、最近になって地域の方々から発行を望む声が聞かれるようになった。ご利用者のご家族の不安や心配等を解消していけるようにするためにも、年内にはあしたば通信の発行が予定されており、近々の発行が楽しみである。
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームの理念にある“家族以上、家族未満”に近づくためには、ご利用者のご家族の意見や悩みは不可欠なものであるとの考えが強くあり、ご家族の意見の反映は大切にしている。「悩んでいるのは私だけだろうか？」との不安を持たれたご家族に対しては、本音を言いやすいようにするために家族会も組織しているが、施設長自身がご家族同士での連絡を取り合える環境作りに配慮することで、ご家族の横のつながりもできている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	施設長は、馴染みの関係がご利用者には大切であると考えているが、今年度はご家族のご都合(転勤や家族介護等)にて春先に複数のスタッフが離職された。新規スタッフが多い状態ではあるが、新規スタッフが現任スタッフと同じ対応ができるよう、管理者が1対1で指導し、ご利用者への影響を最小限にするよう努めている。スタッフへの負荷を軽減するために、勤務希望には極力応じるようにしており、調理、夜勤専門のスタッフも配置している。スタッフのストレスへの配慮として、近隣の方に外部の相談窓口になっていただいている。	○	新規スタッフには、認知症に対する理解を深めるよう、施設長、管理者を中心にケアマニュアルの作成に取りかかっている。またスタッフのストレス解消のために、親睦会も予定している。今後は離職が抑えられ、ご利用者への影響が最小限になることを期待したい。
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	施設長・管理者は、性別・年齢・宗教で採用対象から外すことはしておらず、70歳を過ぎられた方も採用している。絵の得意なスタッフには、ホーム便りに4コマ漫画を書いてもらった。園芸、折り紙、工作、歌、理美容、料理、裁縫等、スタッフの持っている能力を引き出し、得意なことをホーム活動に活かしてもらっている。資格取得支援には費用の補助もされており、スタッフの自己実現、働きながらの社会参加も支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権に関する外部研修にスタッフを参加させており、その外部研修をもとに、人権尊重やマナー研修等のテーマで内部研修を実施している。また日々の会議やカンファレンス等にて、常にご利用者の立場で考えるという形でご利用者の人権を守ることを指導している。ご利用者の安全・他ご利用者とのトラブルを避けるという理由があるにせよ、スタッフの一方的な対応にならないよう、ご利用者に必ず同意を得てから必要なケアを行うようにする等、具体的な注意もされている。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設長は、サービスの質の向上のためにはスタッフの研修が大切であることを意識し、積極的に研修参加に取り組んでいる。県・市主催の研修会、事業者協議会の研修等の外部研修の内容をもとに、6ヶ月に1回程、内部研修を行っているが、伝達研修が十分に実施できていない。内部研修は、利用予定者が有する疾病の理解等、その時その時に応じてテーマを設定しており、現場で困っていることに即応できるという意味で有効なものとなっているが、計画的に行えていたとも言いがたい。	○	その時の必要性に応じて、テーマを柔軟に組み替える余地も残しつつ、「緊急時対応」「個人情報保護」等の毎年繰り返したい内容や、「感染症予防」等季節ごとのテーマについては、年間のスケジュールを立てて内部研修を行っていくとより良いと思われる。スタッフごとに、1年の抱負や学びたいことを書いてもらい、受講した研修の記録を残し、1年振り返っての成果を見つめるようにすることも、スタッフの意欲づけ・段階を踏んでの育成に効果的と思われる。今後は月1回の内部研修を検討している。
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	“福岡県高齢者グループホーム協議会”に入会しており、毎回ブロック会議には参加している。近隣のグループホームとの合同で行う餅つき大会やスタッフの相互訪問等は3年程続いており、今後も他事業所との交流を大切にしていきたいと考えている。また施設長は、同業者との交流の意義を意識し、ネットワークを通じて関係を作った他県のグループホームに、スタッフを研修、実習に派遣したりしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	グループホームという意味をご理解いただけない方には、ご利用前にされていた生活の習慣を継続していただくことで、生活の場所として納得いただいたこともある。また管理者がご利用前に予めご自宅を訪問し、馴染みの関係を築いている。ご本人やご家族と相談しながら、ホームでゆっくり慣れていくようにと短時間の通所サービスから始め、体験入居へと移行していった方もおられる。徐々に環境に慣れていただいているから正式にご利用いただく形をとっており、ご利用者が安心してご利用開始できるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ロシア語、料理、野菜の作り方、掃除の仕方、諺等をご利用者の知恵袋を教えていただいている。失敗して気落ちしているスタッフの肩を叩いて励ましてくださったり、少し体調を崩しているスタッフに「あまり無理しなさんなよ」「もう遅いから寝なさい」等と声をかけてくださる。お互いの健康に心配りをしながら、ご利用者とスタッフが共に過ごし、支えあう関係を築いている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	以前より、ご利用者本位のケアが行えるよう、ご利用者の思いの把握に努めてきたが、昨年から“センター方式”も導入し、ご本人やご家族の協力も得ながら情報収集を行い、表情の変化等を観察し、言葉に出せない方に対しては表情から思いを推察している。推察がスタッフの一人よがりにならないよう、スタッフ間で情報交換・話し合いを繰り返し行っている。1対1の時の会話も大切に、少しずつではあるが意思疎通困難なご利用者の希望や意向の把握に取り組めてきている。	○	様々な試みをしているが、現在も、意思表示ができず、思いを把握することが難しいご利用者がおられ、ホームとしても継続して取り組んでいきたいと考えている。ご利用者が行きたい場所を言われた時は、希望はできる限り叶えてさしあげたいと考えている。また、それをきっかけに更にその方に真意に近づきたいという思いから、施設長や管理者は勤務調整も含めてホーム全体で実現に向けて取り組んでいっている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	“センター方式”を導入し、ご本人やご家族から情報をいただきながら、“地域で暮らす”という視点も盛り込みながら、ご利用者本位の「介護計画」の作成に取り組んでいる。必要に応じて、かかりつけ医、認知症専門医や歯科医等にも相談している。問いかけをしても、希望を言われることがほとんどないご利用者もおられる。ご利用者の思いを明確化して記載することが難しいご利用者もおられるが、そのようなご利用者の希望や意向に対してもスタッフが目を向けられるようになってきており、ご家族の希望を含め、スタッフ間で話し合いながら、介護計画を作成している。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月、介護計画検討会議にて、全ご利用者の介護計画の見直しを実施している。またご利用者、ご家族に状況変化があった時やご要望が挙がった時には、随時、見直しを行っている。状態変化の見られないご利用者に対しても見過ごしていることはないかを、変更の必要性はないか等をスタッフと話し合い、意見を出し合い対応している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご家族の希望もあり、これまで医療機関との連携により看取りケアを実施した。訪問歯科診療の活用もしている。またご利用者の心身機能維持のために訪問マッサージやインストラクターによる体動レクをとりいれている。また遠方への外出支援として旅行を趣味とされている施設長自らの知識を活かし、外出道中の休憩所や段差のないパーキングエリア、トイレ等のアドバイスをを行うことで、心地よく不安のない外出をしていただく等の支援も柔軟に行っている。	○	ホームとして、インストラクターによる体操レクリエーションに、地域の方にもご参加いただくことを運営推進会議を通して検討している。事業所の多機能性を、ご利用者の生活の拡充のみならず、地域への還元という形で活かしていく取り組みが期待される。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間対応、必要時にも往診にも来てくださるかかりつけ医もおられ、医師との情報交換が行えるようになってきており、通院時にはホーム側から情報提供、質問用紙等を持参し、医師に返事を記入していただいている。協力医療機関以外への通院介助はご家族にお願いしているが、受診結果をご家族からお聞きし、ホーム側で情報を把握して医療機関との連携に努めている。今後も医療機関との連携の強化が維持できるように心がけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療処置が必要になられた場合は対応が難しいと考えているが、前年度、ご家族の強い希望があり、初めてホームで看取りケアをさせていただいた。今後も医療処置の必要がない場合は、医師との連携にて看取りケアを検討していきたいと考えている。医療処置が必要な状態になられた場合はご家族、ご本人、主治医等と相談し、ご本人にとってどのような環境(病院なのか介護保険施設なのか)、対応が適切であるのかを考えていきたい。	○	今後も、ホームとして医療資格者を確保するのではなく、協力医療機関との連携という形でご利用者の健康維持を図っていきたくと考えている。また、ホームでの対応が難しい医療処置が必要な状態になられた場合の医療機関との連携も強化していきたいと考えている。重度化された時の対応について、ホームの方針を明確にし、できるだけ早い段階から重度化した場合の意向をご家族やご本人から聞き取り、本当の声を把握しておくことに努める等、多くの関係者との連携により皆で支援するような体制作りを期待していきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ご利用者の尊厳を守るためのスタッフの言動、個人情報保護、ともに、スタッフ指導を徹底して行っている。常にスタッフが付き添う必要のある方がおられ、通常は事務室で行う申し送りを、その方の傍らで行う必要が生じる時があり、今回の自己評価を通して、その行為も、ご利用者のプライバシー保護に触れるのではと感じ、それを契機に、その他のケアについても見直しを行っている。	○	自己評価を契機に行ったケアの見直しの一つとして、見守りの視点から食堂兼居間で実施していた記録を、事務室で書くことを試みているとのこと。またケアの中でスタッフの声が大きめになっていることも課題の一つとなっている。お互いに職員同士で注意をしかけているが、今後も、ご利用者のプライバシーを保護するとはどういうことなのか、具体的な形に置きなおしての検討・試行を続けてみてはどうかであろうか。
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者のペースに合わせて、無理強いせず、“待つケア”を心がけている。ご利用者が、入浴や外出等、予定外のことを希望された時にも、出来る限り対応させていただいている。またご利用者同士の人間関係のトラブルがみられており、他のご利用者を非難するような言葉がみられているため、スタッフが間に入り、未然にトラブルを防止し、ご利用者同士が気兼ねなく安心して、その方らしい生活が過ごせるよう慎重に支援している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	管理栄養士による献立・食材配達・調理まで一連して専門の業者に委託しているが、“ご利用者と一緒にする”ことに対する理解を得ているので、下ごしらえや食器拭き等にご利用者が参加できている。週2回のホームでの調理日には、一緒に料理を楽しむ他、献立作成・買出し等もさせていただいている。ホームで採れた野菜を出したり、“みそかつ”“ジンギスカン”など、北海道から沖縄まで、さまざまな土地の郷土食を採り入れたり、外食にお連れする等、ご利用者に美味しく食べていただく工夫をしている。		
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回、午後の入浴としているが、希望があれば、可能な範囲で対応させていただいている。入っている時間、湯温、シャンプー等も各ご利用者の好みに合わせている。拒否をされる方もおられるが、入浴順を工夫したり、“入浴券”を作ったり(お金を持っていないことを気にされていたため)と、気持ちよく入っていただく取り組みをしている。ご利用者の希望があり、スタッフの人員が間に合わないときには日勤のスタッフが勤務時間を延長してでも、夜間の入浴を実施している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	長年培ってきた経験や得意なことを把握し、うどんや煮豆作りといった調理、小物作り等の裁縫、寝具などを交換する際の手伝い等、ご利用者の得意なことを活かして、ホーム活動に参加いただいている。作業が難しい方も、他ご利用者への心配り、居間でのムードメーカーという役割を担ってくださっている。以前、趣味でされていた、ちぎり絵を、他ご利用者に教えてくださった方もおられた。	○	これまで、ご利用者ごとの楽しみの支援を行ってきたが、今年、「センター方式」を導入したことで、これまで把握できなかったことがいくつも分かり、新たな取り組みの可能性が見え、順次、試みが続いている。スタッフがご利用者の役割、作業等に手をさしすぎないように、また持っているお力を十分に発揮していただけるような支援をしていくことが期待される。
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物といった日常的な外出の他、季節ごとのドライブ等もしている。また馴染みの理・美容室にもお連れしたり、入居前に習慣とされていたお盆の命日のお寺参りも継続していただいている。普段、あまり要望を言われないご利用者が、「自宅に帰りたい」とおっしゃられたので、ご本人の希望を叶えるために、ご家族に協力を依頼し、自宅への外出が実現できた。	○	現在、外出が、「皆で一緒に行く」というのが主になっているため、ご利用者の好みや習慣の継続の視点で、個人的な外出や、思い出の場所の訪問等の実現に取り組んでいきたいとのこと。その際は、是非、ご家族も一緒いただきたいと考えているとのこと、ご家族への声かけ・協力依頼も引き続き行っていきたいということで、今後もご利用者が喜ばれる外出が増えることが期待される。
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	敷地出入り口、玄関ともに、夜間は戸締りするが、日中は施錠していない。玄関には、音量に配慮した犬の鳴き声をするセンサーをつけている。センサーが反応せず、1人での外出が危ぶまれる方がおられ、状態に応じて短時間、玄関を施錠することもあるが、施設長は鍵をかけることがご利用者にとってもご家族にとっても圧迫感を感じさせていることを理解しており、できるだけ鍵をかける時間を短くしていくような取り組みを検討している。また地域での見守りの協力を得られている。	○	スタッフが少し手薄になる早朝や夕方の時間帯の鍵の施錠をいかに減らしていくかが現在の課題となっている。新規スタッフも充実し、人員も増えてきているので、今後は鍵をかけないケアへの取り組みに期待したい。
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力も得て、ご利用者の参加のもと、避難訓練を年に3、4回程行っている。夜間想定訓練も行った。訓練を通して、ホームからの避難後の見守り(スタッフが他ご利用者の誘導を行っている際)が必要であることが把握されたため、地域の方に具体的に協力いただきたいことをお伝えし、訓練にも参加いただいている。災害に備えた備蓄はまだ行えていない。	○	これまでは、火災を想定しての訓練を行ってきたので、今後は、地震や風水害時の設定での訓練を行いたいとのこと。災害備蓄についても整えていきたいとのこと、何が必要かスタッフとも話し合いをし、順次、準備して行って欲しい。非常食・飲料水については、賞味期限の確認等、管理方法についてもルールを定めておくとうまいと思われる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の作成した献立に従っており、カロリー・栄養バランスに配慮された食事を提供している。週2日のホーム調理日の献立も、カロリーを考えて作っている。食事量・飲水量は、把握・記録している。食材や味付け、盛り付けを、各ご利用者の嗜好に合わせる他、食事・水分の摂取量が少なめになっている方には、特に、食べ易いもの、好きなものを準備し、少しでも召し上がっていただけるようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広いリビングは窓も多く、とても明るい空間になっている。複数のテーブルやソファが配置され、続きの和室と合わせて、思い思いの場所で過ごせるように配慮されている。光の強さ、気温、湿度、音等、ご利用者にとって快適な空間となるよう気を配っており、日差しはレースのカーテンで調整し、不要なものは廊下に置かないなども配慮している。季節の花を飾り、季節ごとに飾りつけもし、ホーム内でも季節を感じていただけるように努めている。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームでベッドは準備しているが、入居に際、ご家族にも相談し、馴染みの物をお持ちいただくよう働きかけており、仏壇、思い出の品、装飾品、過去の生活習慣に沿った家具等、自由に持ち込んでいただいている。居室扉横の表示は、生活歴も踏まえ、その方が好まれるであろう絵にしている。		